

公認取引モニタリング アソシエイト認定資格 (CTMA)



AMLコンプライアンス・プログラムにおいて、疑わしい取引の監視は特に重要な役割です。金融機関が自動化システムを導入している場合でも、十分に訓練を積んだ担当者がアラートの調査をすることによって、はじめて質の高い取引モニタリングが可能になります。

公認取引モニタリングアソシエイト (Certified Transaction Monitoring Associate、CTMA) 認定資格は、アラート調査担当者の必要な知識とスキルの確立を目的とした、最新のグローバルスタンダードです。CAMSの開発チームによって開発されたこの資格は、アラート調査の担当者が認定試験を通じて十分なトレーニングを受け、確実に知識を身につけることで、組織が金融犯罪リスクに対処できるようになります。

ACAMSがCTMAを開発した理由とは？

取引モニタリングは金融犯罪を検知する一翼を担っており、継続的なデュー・デリジェンスにおいて重要な位置を占めています。取引モニタリングは、金融機関が不自然な取引や疑わしい取引を割り出す上で、顧客オンボーディングに次いで重要な作業となっています。取引モニタリングシステムから発せられるアラートは調査し、必要に応じて関係規制当局や政府当局に報告する必要があります。

堅固な取引モニタリングプログラムを有することは、規制に完全に準拠したマネー・ロンダリング防止プログラムであることの主要要件であるため、こうしたアラートを処理・調査する担当者にはトレーニングが必要不可欠です。

CTMAにアソシエイト・レベルがある理由とは？

ACAMSは、さまざまなキャリアの段階にある方をサポートできるよう、最長で約1年間の経験を持つ方を対象にアソシエイト・レベルの認定資格制度を提供しています。これらの認定資格取得は経験による受験資格要件を設けていないことから、金融犯罪防止関連業務の経験がない方にも受験いただけます。

CTMA認定資格を取得するメリットは？

取引モニタリングは、AMLおよび金融犯罪のコンプライアンス・プログラムにおいて不可欠な構成要素です。取引モニタリングを専門職とする個人にとって、CTMAは取引モニタリングに関する自己の知識を立証し、実力の強化に役立てることができます。金融機関は従業員がCTMA認定資格を取得することで、ますます複雑化する法律、規制、政策の現状において、AMLおよび金融犯罪コンプライアンスに対する積極的な姿勢や貢献を示すことができます。



CTMA認定資格の対象者は？

CTMAは、取引モニタリングに現在従事している、もしくは将来的に従事したいと考えている専門職の初期段階にある従業員、およびそれらを監督またはサポートする立場にある方を対象としています。6～12か月の実務経験とCTMA認定資格の取得で、取引モニタリングシステムから発生するアラートについて、アラートが発せられた時点からそれが解消されるまでの間、またはチームにエスカレーションして「疑わしい取引の届出」(SAR)を決定し提出するまでの間の調査を進める能力が備わります。尚、同プログラムは取引モニタリングの関連技術についてはあまり掘り下げていないため、取引モニタリングの技術を専門とする方にはCTMAの資格は適していません。TM(取引モニタリング)アラートを生成する技術については、しきい値や誤検出の理由など、主要原理を理解するレベルで解説するにとどまります。

組織にとっては以下のようなメリットがあります：

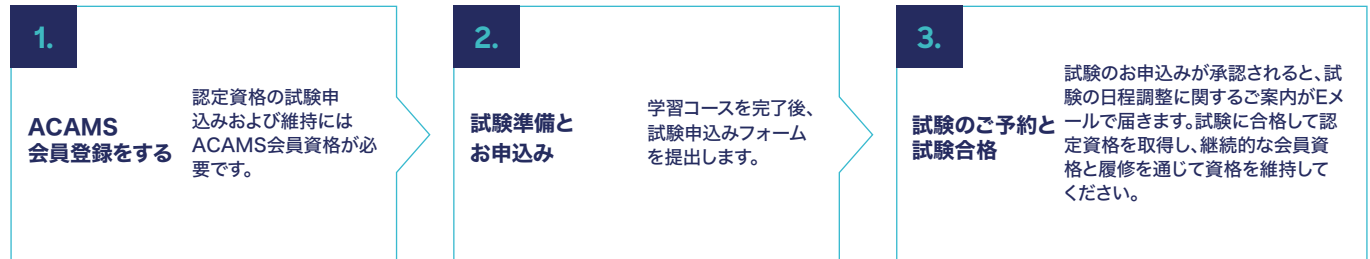
- CTMAは一貫した基準を適用するため、組織は取引モニタリング担当者が客観的で注意深く設定された役割に基づいた知識のベンチマークを立証していることを証明できます。
- グローバルな認定資格であるCTMAにより、グローバル組織におけるネットワークで単一の一貫したプログラムを適用することができます。
- CTMA認定資格を取得することで、金融犯罪防止に従事するプロフェッショナルの知識とスキルの強化に取り組み続ける世界最大の会員組織、ACAMSのグローバルネットワークの一員になることができます。

この認定資格が役立つと思われる職種は以下のとおりです：

- | | |
|------------------|---------------------|
| - 取引モニタリングアナリスト | - 金融犯罪対策アナリスト |
| - アラート担当者 | - リスク・アナリスト |
| - 取引モニタリング調査担当者 | - マネー・ロンダリング対策アナリスト |
| - KYCアナリスト | - スクリーニング・アナリスト |
| - オンボーディング・アナリスト | - 不正行為アナリスト |
| - 金融犯罪活動アナリスト | - 不正操作アナリスト |
| - コンプライアンス・アナリスト | |

詳細情報はこちらからご
覧ください：
[acams.org/ja/ctma](https://www.acams.org/ja/ctma)

取得方法



パッケージ内容と価格

グループ価格についてはこちらからお問い合わせください。

このパッケージには以下が含まれます

- 電子版スタディガイド (PDF)
- フラッシュカード
- オンライン学習資料 (事後評価)
- 模擬試験
- 試験 1 回分

US\$1,045

現在、CTMA試験は以下の言語で提供されています:

- 中国語(簡体字)
- オランダ語
- フランス語
- 日本語
- 中国語(繁体字)
- 英語
- ドイツ語
- スペイン語

詳細情報はこちらからご覧ください:
[acams.org/ja/ctma](https://www.acams.org/ja/ctma)

CTMA試験で審査される従業員のコンピテンシーは何ですか。

大きな組織では、取引モニタリングの役割が3つの段階(ティア)に分割されている場合があります。CTMAでは、ティア1(システムのエラーか正当なアラートかを判断するために、生成されたアラートの検証を行う)とティア2(正当なアラートについてより詳細に調査し、不自然な取引や疑わしい取引が見られるかどうかを判断する)を対象にしています。これらのアラートは、生成されてから最終的に解消されるか、もしくはティア3にエスカレーションされる(内部FIUの幹部がSAR提出の是非を慎重に検討した後、SARを提出する)まで、調査されます。

CTMAに関する主要なトピックには以下のものがあります：

1. 金融犯罪防止における取引モニタリングの役割 (20%)

- 1.1. 金融犯罪に関連するリスクの種類
- 1.2. 金融機関のリスクベース・アプローチ、リスク評価、組織のリスクアペタイトにおける取引モニタリングの目的
- 1.3. 顧客タイプと商品に関連する特定のリスク
- 1.4. 取引モニタリングに求められる真の受益者と取引相手の確認
- 1.5. 取引モニタリングと継続的なデュー・デリジェンスとの関係
- 1.6. 取引のスクリーニングと取引後のアラートとの比較
- 1.7. 取引モニタリングプロセスの効果を測定し、品質を保証する方法
- 1.8. 不自然な取引と疑わしい取引の違い

2. 取引モニタリング・アラートの生成 (15%)

- 2.1. アラートが生成される過程と様々なアラートの原因
- 2.2. 有効なアラート、誤検出、非生産的なアラート間の区別など、アラートの有効性を判断する方法
- 2.3. アラートの量が時期によって異なる可能性がある理由と上位責任者に変化を報告する方法とタイミング
- 2.4. シナリオ、ルール、パターン、行動ベース、しきい値の目的
- 2.5. 調整の目的、責任を負う当事者、実施時すべきタイミング

3. アラート調査 (40%)

- 3.1. マネー・ローンダリングの犯罪類型/レッド・フラッグと関連する不自然な取引
- 3.2. テロ資金供与の類型/レッド・フラッグと関連する不自然な取引

- 3.3. 非AML金融犯罪の類型/レッド・フラッグおよび関連する不自然な取引
- 3.4. 個人顧客による複数のアラートを調査する方法
- 3.5. 取引モニタリング調査に関する調査手順
- 3.6. 追加情報を収集するためのベストプラクティス
- 3.7. 取引モニタリングでよくあるミス
- 3.8. 取引モニタリングの調査中に新しいリスクを特定する方法

4. 取引モニタリング調査結果 (25%)

- 4.1. 取引モニタリングの調査結果
- 4.2. 決定事項の根拠を文書化し、監査証跡を作成する方法
- 4.3. 疑わしい取引および(または)不自然な取引の報告に関連する規制要件
- 4.4. SAR提出の可能性のある活動をエスカレーションすべき理由、SARの機密性
- 4.5. FIU/法執行機関からの通知